

紀 要 委 員 会

委員長 薄井 明

委 員 八木こずえ 早出 春美

佐藤 園美 志水 朱

井上 貴翔

編 集 後 記

今年も、12月20日の発行日に無事『看護福祉学部紀要』を刊行することができました。投稿してくださった先生方には、改めて感謝申し上げます。また、紀要委員の皆さまには、懸案の検討や原稿収集などにご尽力いただき、ありがとうございました。

今年5月に元号が平成から令和に代わり、令和元年となりました。平成6年に創刊した本紀要が元号を跨いで発行されるとは想像もしておりませんでした。本紀要も本号をもって第26号になります。25年が四半世紀という節目だとすれば、創刊26年目の今年からは『看護福祉学部紀要』は新しいフェーズに入ったといってよいでしょう。若い世代の先生方のご投稿も増えつつあり、新時代の到来を感じます。

私事になりますが、本紀要への私の投稿論文が機縁となって、本年6月、(私の所属していない)ある地方学会の研究報告会に登壇者として呼ばれ、発表をしてまいりました。研究報告会後の懇親会で初対面の若い研究者から「先生の紀要論文は全て興味深く読ませていただいています」と言われたときは、とても嬉しかったです。機関リポジトリによって全国あるいは全世界で閲覧可能になっていると、このような形で注目を受けることもあるのだ、とつくづく思った次第です。現代はインターネットを介して研究者個人と研究者個人が直接的につながる時代ですが、そうした学究環境においても『看護福祉学部紀要』が重要な媒体の一つになっていることに変わりはありません。「看護福祉学部教員の研究発表の場」としての本紀要が次の四半世紀も続き、さらにレベルを上げていくために、教員の皆さまのご協力を仰ぎ、ともに尽力していこうと、思いを新たにしている年の暮れです。(薄井 明)